

SESPP 事業 技能評価技法・訓練方法国内合同研修レポート

2017年8月28日～9月7日にかけて、今年度のSESPP事業の最初の研修となる、「技能評価技法・訓練方法国内合同研修」が開催されました。その内容をレポートします。

■開催概要

1. 研修名

技能評価技法・訓練方法国内合同研修(シーケンス制御／配電盤制御盤)

2. 合同研修の趣旨

ASEAN4カ国(カンボジア、ラオス、ミャンマー及びベトナム。以下「CLMV」という。)における官民の技能評価担当者(政策/業務担当者及び業界の人材養成指導者)に対して、「官民連携に基づく職業訓練と技能評価」(フェーズIV2016-2019 テーマ)の枠組みで、特定職種における技能評価制度構築運営を念頭に、技能評価(基準・課題・採点要領作成)と訓練方法(訓練コース設定とその評価)のノウハウを移転することを目的とする。

3. 対象職種及びテーマ

対象職種:電気機器組立(シーケンス制御(CV)、配電盤制御盤組立(LM))

テーマ :「訓練コース設定と技能評価」(ASEAN 指導員マニュアル(GAIN)を習得)

2018:「訓練指導技法の改善」、2019:「技能評価システムの品質保証」)

4. 研修の狙いと目標

狙い:官民連携により、該当職種の技能評価法と訓練コースを実施できること

目標:研修参加者が官民協力して、該当職種の技能向上に向けた訓練と評価方法のアクションプランを作成、各国で展開する(国の実情に応じて、レベルは2級、3級いずれの可)。

官民合同委員会でアクションプラン及びその実施状況を発表、報告する。

5. メイン会場

幕張国際研修センター(千葉市美浜区ひび野1-1)

6. 参加国及び参加者数

CLMVの官民の職業訓練又は技能評価担当者で該当職種の2級又は3級レベル経験のある者(8人)

官:技能評価政策/業務実施担当者, 訓練施設指導員等

民:技能評価実施のため行政のパートナーとなる業界団体等の教育訓練指導者

- ①日本の技能検定2級又は3級合格レベル能力、
- ②英語読み書き聞く話すコミュニケーション能力
- ③カントリーペーパー作成、アクションプラン作成、プレゼン能力

※CLMV:カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム

7. カントリーペーパー：個々人で作成

- ① 自身の該当職種に関する訓練及び評価に関するキャリア
- ② 「訓練コース設定と技能評価」の現状
- ③ 「訓練コース設定と技能評価」に係る課題、改善すべき点
- ④ 日本の「訓練及び評価」の経験、ノウハウから習得したい点

8. アクションプラン：各国官民参加者で1つ作成

- ① 貴国の訓練コースと技能評価の現状分析(何が足りないか)
- ② 日本の経験から習得したこと
- ③ 善提案した訓練コース実施方法、評価方法(ドナーに頼らず、最低限の官民連携ができること)

9. 日程

	カリキュラム内容	講師等	
8月 27日(日)	入国 空港出迎え、空港から宿泊施設への移動	木村講師 木村講師 稲川講師 厚生労働省	
28日(月)	(午前)オリエンテーション、開講式、写真撮影、研修目的事業の狙い (午後)歓迎レセプション、各国からカントリーペーパー発表		
29日(火)	(午前)カントリーペーパー続き、講義「アクションプランの作り方」 (午後)講義「訓練における官民連携」「GAIN(カリキュラム開発)」		
30日(水)	(午前)講義「技能検定、技能競技大会、採点の原則、手法等」 (午後)講義「職業能力開発行政」「職業訓練」「能力評価」		
31日(木)	(午前)講義・視察1「ポリテクカレッジの実例」 (午後)講義・視察2「ポリテクセンターの実例」		
9月 1日(金)	(午前)講義・移動 日本電設・中央学園(シーケンス制御) 視察 (午後)講義・視察3 東芝・新横浜研修センター又は府中事業所(配電盤制御盤) 視察 等		
2日(土)～ 3日(日)	土曜日:休日 日曜日:休日		
4日(月)	(午前)講義「職種概念、基準細目 シーケンス:CV4名、配電盤:ML4名 (午後)講義「学科/実技試験問題解説、作業手順書、実技試験実施要領、採点要領」		SC 岡勢講師 本田講師 谷口講師 PDCPA 萩生田講師 木賊講師
5日(火)	(午前)実習「実技・学科試験問題の作成要点、作成手順」 (午後)実習「オリジナル試験課題作成」		
6日(水)	(午前)「訓練コース作成方法」 (午後)「訓練コース実例紹介」アクションプラン作成準備		
7日(木)	(午前)アクションプラン作成、発表 (午後)アクションプラン発表、総括、閉講式		
8日(金)	帰国		

※講師

木村 陽一氏
 稲川 文夫氏
 岡勢 規正氏
 本田 雅夫氏
 谷口 昌也氏
 萩生田 幸男氏
 木賊 勝信氏

10. プログラム／参加者の反応

開講前日に各国から官民1名ずつ計8名の参加者が予定通り来日し、研修のメイン会場となる「幕張国際研修センター」に集合しました。

初日、開講に際して、厚生労働省 職業能力開発局 海外協力室の西田室長より、研修の目的や、成果として各国のアクションプランを作成できるレベルに到達してもらいたい、といった挨拶がありました。

初日の午後から翌日にかけて、各参加者より各国のカントリーペーパーを発表した後、木村先生からアクションプランの作成に関する講義がありました。その後は8. 日程に沿って研修が催行されました。最終日には、閉講式が行われ、終了証のお渡しと記念撮影が実施され2週間の幕を閉じました。

① プログラムのポイント

前半の一週間は、木村先生のアクションプランの作成方、訓練の官民連携、訓練コース作成、稲川先生の日本の技能訓練制度に関する講義と厚労省表敬訪問、千葉職業能力開発短期大学校、千葉職業能力開発促進センター、日本電設中央学園と東芝府中事業所訪問をしました。座学と見学はかなりバランスのとれた良いプログラムとなりました。参加者からは、「日本電設のソーラーパネル等のエネルギーの革新的な技術が大変興味深かった」とか、「東芝のスケールの大きさに感銘を受けた」といった意見があり、施設見学と意見交換はかなり良い経験となったという感想もいただきました。

後半の一週間は、シーケンス制御部門と配電盤部門に分かれて講義・実習・訓練を行いました。

シーケンス制御に関してはベトナムとカンボジアの4名が参加いたしました。ベトナムの方がレベル高く、カンボジアの方は作業に多少時間かかりました。アクションプランに関して、ベトナムは事前に準備していたと思われそうですが、本研修を今後どう具現化するのが課題でありました。一方カンボジアは一週間の研修プログラムを提案し現実的なアクションプランを発表いたしました。

配電盤はミャンマー、ラオス4名が参加しました。休日を利用して、「アクションプランの作成」に取り組んでいました。ラオスについては、参加者のうちスーリサク氏のご家族の病気ため、9月6日に急遽帰国となった為、5日に「アクションプラン」を事前に完成させ、発表いただきました。事前に発表になったことで、ミャンマーの方々の参考になったとともに、シーケンス部門のベトナム、カンボジアの方々にも参考となり、いい影響を与えました。特にミャンマー、ラオスともに官民合同委員会についてもアクションプランに具体的に落としこまれており、講師の方々からも評価されました。

② 参加者のコメントや反応

今回の参加者はCALMVから2名ずつの8名であったが20代女性2名と男性6名という構成で当初はメンバー間のコミュニケーションに困難があったが最終的には全員和気藹々とし良いチームワークでありました。

但し、英語力にかなりの差があり、コミュニケーションが少ない方もいましたが、参加者全員非常に熱心に取り組んでいました。

また、参加者は半分は訪日経験あり半分程度は初来日であった。日本の印象は訪問箇所も含め「5S（整理、整頓、清潔等）徹底されていて素晴らしい」という感想を多くの参加者から伺いました。

③ 講師他コメント

(萩生田講師) 全般的に今回は優秀な人材に参加頂き質問も活発だった。今後今回作成したアクションプランの内容が実現できるように頑張ってもらいたい。

(木賦講師) 全般的なゴールは電気を安全に使うこと。分野別のエキスパートではなく、シーケンス、配電盤共に全般的なエキスパートになること、および今後の活躍に大いに期待している。

(谷口先生) 2日間という短い期間だったがお役に立てたなら幸いである。今回皆素晴らしいアクションプランができたと思う。帰国後、自国で実施する事が重要。実施の過程では必ず困難な事があると思われるが、それに打ち勝って実現して欲しい。

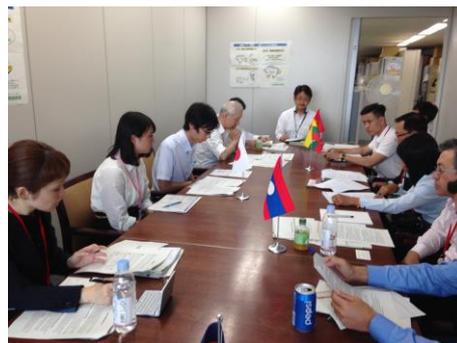
(本田先生) 後半のシーケンス部会を担当した。ベトナムとカンボジアの参加者は、大変熱心に勉強していた。アクションプランも素晴らしく是非母国にて実現してもらいたい。

(西田室長)

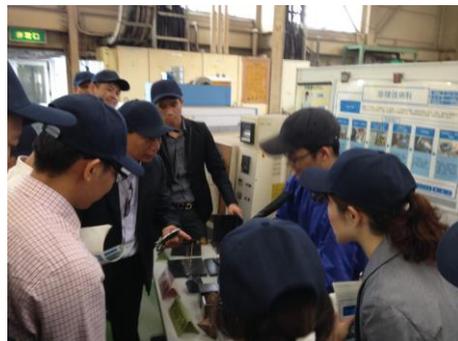
(カンボジアのアクションプランに対して)カンボジアは官民の連携が取れているので、是非、PPJC で民間の参加を促し、官民連携を図って欲しい。カンボジアには、最近多くの日系企業が進出しており、日系企業 (DENSO, ミネベア等) は官民連携の重要性を認識しているので協力してくれると確信している。JICA のプロジェクトと共同し成功することを祈っている。



カントリーペーパー発表



講義風景



見学



参加者の集合写真